

関東の森林から

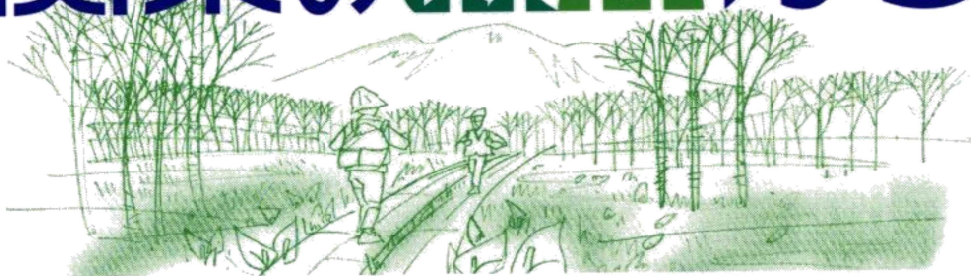


国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



「コンテナ苗植栽とシカ防護柵」
伊豆森林管理署（筏場国有林）

（撮影者：伊豆森林管理署）

- 「レクリエーションの森の管理経営について」 保全課 2
- 「平成28年度生物多様性保全研修について」 計画課 4
- 小笠原の森林への心遣い 小笠原諸島森林生態系保全センター 5
- 森づくり最前線
群馬森林管理署 水沼森林事務所 地域統括森林官 玉井宏 6

「レクリエーションの森の管理経営について」

計画保全部 保全課

国有林野においては、従来からスキー場、野営場、自然休養林等のレクリエーション施設の設置に努めてきました。また、国土の保全、自然の保護、林業経営等との調和のもとに、さらに積極的に、国有林野を計画的、かつ、適正に、国民の保健休養の場として提供する必要があることから、昭和47年度以降に樹立する地域施設計画においては、自然景観、森林の保健、文化・教育的利用の現状及び将来の見通し、地域の要請等を勘案し、森林の他の諸機能との調和を図つたうえで、レクリエーションの用に供する国有林野を「レクリエーションの森」として選定してきました。

山、キャンプ、ハイキング、温泉浴など多様な森林レクリエーションを楽しむことができ、当局管内には20箇所選定しています。

代表的な自然休養林の1つとして、東京都八王子市に位置する高尾山を設定しており、都心から最も近距離にある天然林として知られ、春の新緑と秋の紅葉を楽しむことができる自然景観を有しています。また、山稜の桜並木も有名で、春

の開花期には美しい花のトンネルが現出し、年間を通じ200万人以上の方が利用しています。

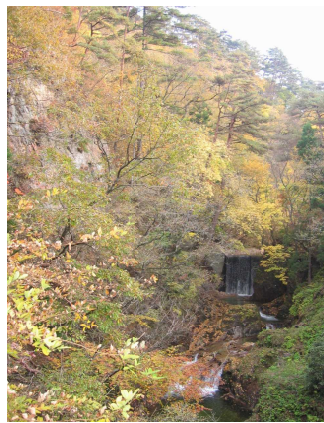
高尾山はもともと高尾山薬王院の御朱印地であったこともあって、地域内には老木のスギ並木や滝を利用した修行地等があり、昭和2年にケーブルカーが建設されて以降は容易に山頂に到達できるようになり、富士山も眺望できることからより一層注目されています。

さらに、平成19年にはミシュランガイドで最高ランクの三つ星の観光地に選出されたことも加わり、海外からの観光客も増加しています。

ながら植生、野鳥などの観察や森林の働きなどを学ぶことができ、近隣市町村の小中学生の自然科学教育などに適した森林を選定します。

森林スポーツ林

森林スポーツ林は、キャンプ、クロスカントリースキー、フィールドアスレチック、サイクリング等森林を主体とするアウトドアライフに適した地域を選定しており、多くの方に利用されています。



山本不動森林スポーツ林 (福島県棚倉町)

野外スポーツ地域

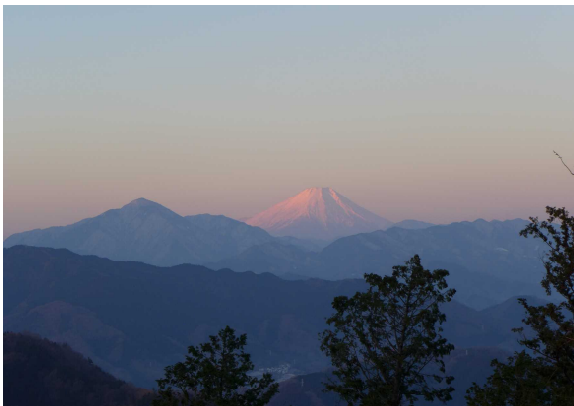
野外スポーツ地域は、スキー場、パブリックゴルフ場、総合運動場等のスポーツ施設やホテル、民宿等の滞在施設等の設置に適した地域を選定しています。

代表的な地域の1つとして、新潟県の苗場があり、国内最長のゴンドラ(全長約5.5km)を利用し、冬は

自然休養林

レクリエーションの森は、自然休養林を始め、自然観察教育林、森林スポーツ林、野外スポーツ地域、風致探勝林、風景林の6種類に区分され、それぞれ対象とする目的に応じた国有林野を選定しています。

自然休養林は、森林を主体とした風景の優れた地域で、自然探勝、登



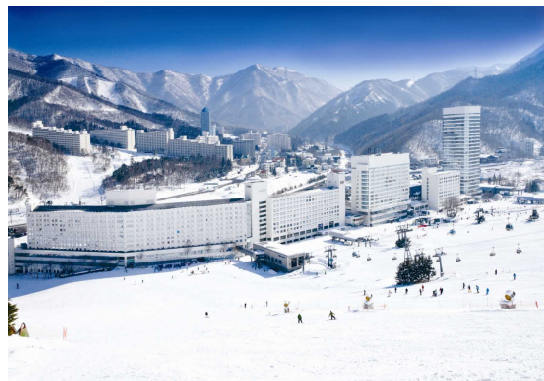
高尾山一丁平から望む富士山(赤富士)



登山客で賑わう4号路(みやま橋)

自然観察教育林

自然観察教育林は、自然を楽しみ



苗場スキー場

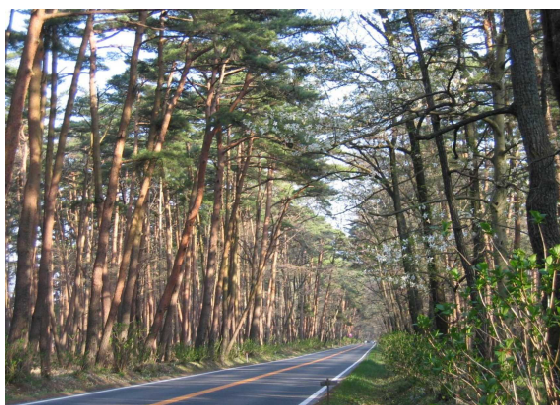


ドラゴンドラと紅葉

スキー場として初級者から上級者まで楽しめるコースが満載で、それぞれの年齢に応じたウインタースポーツを楽しむことができ、初夏から秋にかけては新緑や紅葉を楽しむ方も賑わっています。

風致探勝林は、湖沼、溪谷と一体となつて優れた自然美を構成している森林、多様な樹種・林相からなり、明暗・色調に変化を有する森林等であつて休養施設、宿泊施設等の設置により森林内における休養活動を助長することに適した地域を選定しています。

風致探勝林



那須道路風景林（栃木県那須町）

風景林は、名所、旧跡等と一体となつて優れた景観を作り出している地域を選定しており、展望台や休息地、道路等から眺望できる美しい森林です。

風景林

今後も、公益重視の管理経営の一層の推進を旨とする方針の下、地域振興にも寄与する魅力あるレクリエーションの森を提供するため、地域関係者の意見を踏まえた管理経営を行っていきます。

設定の見直しにあたっては利用者の動向及び今後の見直し、整備の実現可能性、地元自治体を始めとする地域関係者の意向・協力度制等について総合的に検討し、設定目的が失われた地区、利用者の低位な地区、今後の施設の整備や維持が期待できない地区、管理にあたつて地域関係者の協力が得られない地区については、原則廃止を検討しています。

レクリエーションの森は制度創設から相当期間が経過し、利用者のニーズが大きく変化したこと、施設の老朽化等が進み維持管理のための体制が整わなくなつたこと等により、今後の施設の整備や維持が期待できないレクリエーションの森があることから、平成27年4月に「レクリエーションの森」のリフレッシュ対策の運用について「が改正され、レクリエーションの森の設定見直しを行うことになりました。

レクリエーションの森の設定見直し



伊豆森林管理署では、職員実行で有害鳥獣捕獲（くくり罠による捕獲）によるニホンジカの捕獲を行っています。植栽した苗木の食害被害防止のためシカ防護柵設置は不可欠で、低コスト化に向けての課題となっています。

伊豆地域は、ニホンジカの生息個体数の増加により、農林業への被害が甚大であることから、生息密度及び生息個体数の管理を行っています。

伐採跡地の再造林経費縮減の取組として、コンテナ苗の植栽を行っています。コンテナ苗の優れている点は、①植え穴が小さく植付け作業が効率的 ②活着率や初期成長に優れる ③植栽可能時期が長い等が挙げられます。

今月の表紙

「コンテナ苗の植栽とシカ防護柵」

2日目及び3日目は群馬県みなかみ町の「赤谷の森」において、(公財)日本自然保護協会の出島氏から、森林性の猛禽類であるイヌワシやクマタカを指標とした森林管理の具体的な取組を説明いただいた後、双眼鏡や望遠鏡を用いて実際に猛禽類調査を体験し、イヌワシがつがいで飛

猛禽類調査の実習

本年度の研修は、5月16日〜20日の5日間の日程で、7名の研修生の参加のもと座学と現地実習を実施しました。
初日と最終日の座学では、国有林において生物多様性の保全を目指す意義や、希少種の保護と森林施業等の調整の事例等、基礎的な知識の習得に努めました。

国有林では、生物多様性保全を確保した上で、地域の実情に応じた森林の管理経営を目指しています。このため、生物多様性に関する知見を蓄積・活用できる国有林職員の育成を目的として、「生物多様性保全研修」を実施しました。

「平成28年度生物多様性保全研修について」

計画保全部 計画課



猛禽類を観察するための機材の取扱方法について説明を受けている様子

翔して獲物を探している行動を観察することができました。



研修生が観察し撮影したイヌワシのつがい



猛禽類調査を体験する研修生

猛禽類の保護と森林資源の循環利用

4日目は、森林資源のバイオマス利用を推進している群馬県上野村の国有林において、クマタカ等の猛禽類の生息環境を保全しつつ、森林資源の循環利用を図るための伐採計画の状況を説明しました。

その後、上野村の木質バイオマスの利用状況について、上野村振興課の佐藤氏から説明いただき、研修生も真剣に聞き入っていました。

研修を終えて

研修生からは「猛禽類は森林施業の実施に当たって、やっかいなものというイメージがあった。今回の研修で、生物多様性を保全するのに必要なことは我慢ではなく攻めの姿勢で保全・保護と利用を結びつけていくこと、全ては繋がっていることだと感じた」「国有林が地域と連携することの重要性を知った。そのためには関係者に丁寧に説明することが重要」等の意見がありました。

研修生がそれぞれの職場に戻り、今回の研修で得られた知見が活かされることを期待しています。

小笠原の森林への心遣い

小笠原諸島森林生態系保全センター



小笠原諸島森林生態系保護地域では、過去に一度も大陸と陸続きになつたことのない海洋島で独自の進化を遂げ、他では見られない貴重な野生動物は外来種に対して非常に弱い動物であり、人の生活とともに燃料用、飼養動物、貨物に紛れ込んで上陸した動物などによって、存続が危ぶまれている種があることから、小笠原諸島で固有の森林生態系を取り戻す取組を進めています(第137号既報)。

具体的には、アカギ、ギンネム、モクマオウなどの外来植物を駆除しています。①アカギは萌芽力が強く、伐採して集積した輪切りのところから芽が吹き、②ギンネムは土壌に埋まった埋土種子が20年後にも発芽すると言われており、駆除地の状況を見ながら、繰り返し作業が必要となっています。

また、駆除に当たっては、植物、鳥類、昆虫類、陸産貝類(カタツムリ類)、陸水動物(フナムシなど)についての事前モニタリング、薬剤使用箇所の水質・土壌などの事後モニタリングを実施し、駆除が野生動物に影響を与えていないか確認しています。

なお、大きくならずすぎた外来種の駆除は、その地域の光環境や土壌環境に大きな影響を与えます。駆除した後からまた外来植物が再度繁茂しないよう、周辺にある植物の生育状況を見ながら駆除することが重要です。

駆除に当たっては、小さいものであれば抜き取り、ダム集水域以外などでは法令等により許可された農薬を用いた駆除、村民やガイドツアーの利用が可能なルート周辺や下層に希少植物などが繁茂している場所などでは、入林者の危険防止や植物保護のため特殊伐採などの方法を用いています。

父島や母島では標高百メートルでも雲霧が発生する場所があるなど、気象条件や立地条件の違いから、同じ島の中でも異なる進化や植生が見られるため、外来植物を一気に駆除するわけにはいかず、周辺環境に配慮した作業が求められます。

さらに、外来植物により作られた自然環境であっても、それを利用・順応する固有の野生生物が見られることから、それらの生物が本来あるべき生息環境で暮らせるよう外来植物の駆除速度にも配慮が必要となってきています。



外来種が生育した森



アカギの伐採後



アカギの特殊伐採

特殊伐採とは、周辺の樹木などを傷めず、先端部を伐採して、周囲の樹木を傷めないよう、作業員が木の幹を少し削り、木の根を傷めず、木の葉を落とすなど、木の生長を妨げないよう、慎重に行われます。



外来種駆除後の昆虫モニタリング

森づくり最前線

群馬森林管理署 水沼森林事務所 地域統括森林官 玉井 宏

私が勤務する水沼森林事務所は、群馬県東部の桐生市とみどり市に在し、面積は約7千鈔です。百名山で有名な赤城山が北西の稜線にあり、栃木県日光から流れる渡良瀬川が管内中央部を流れ、近くには市営のキャンプ場が2カ所所在し、国産材の供給の場であるとともに、登山やハイキングなど市民の憩いの場として親しまれています。



赤城山はどこからでも見えるので、県民の道標です

しかし、困ったことが一つあります。それは、人工林にシカやクマによる獣害が拡大していることです。現行の対策として防護柵、単木被覆、薬剤塗布などを行っていますが、経費は初期保育費の多くを占めています。



獣害を受けたスギ壮齢林

当所では、剥皮被害対策の発想を転換し次のような取組を試行していますので紹介します。

当事務所が着目したのは皮剥ぎがされにくい有用広葉樹の植栽とこれを通直に仕立てる造林方法です。

広葉樹は針葉樹と比較して一般的に木材として利用されるまでの成長期間や製材品への乾燥の容易さでは劣るものの、住宅資材や家具材などでは広葉樹独特の質感や耐久・加工性で優れており、将来に渡って需要は高いと考えます。

中でも、木理の美しいケヤキや水湿に強いクリ、キノコ栽培にも応用できるナラなどは利用価値の高い樹

種です。

これら広葉樹の利点は、枝葉を食害される高さに生長するまでは薬剤塗布などの対策を施す必要はあるものの、樹高が3メートルほどにもなれば獣害対策はほぼ必要なく、また、ぼう芽更新や埋土種子からの実生も見込め、造林経費の大幅なコストダウンが見込まれます。



クリの木は意外と通直に仕立て安い

このようなことを踏まえ、当事務所管内では試験的にケヤキを植えています。

広葉樹の植付本数を減らす一方で通直な材を得るために、天然に生じた樹木と競合させて初期成長を縦方向へと導くことが必要と考え、天然生稚樹のうち有用広葉樹は選木して保残することも行っています。



造林地内のケヤキ保残木

森林は、多くの動物の住み家や食料など、生態系の基本であり、水源涵養機能や国土保全機能など私たちの生活にも直接関わっています。健全な森林を維持していくためにも、個体調整なども含めた獣害対策の効果的な取組を考えていきたいと思っております。

発行所 関東森林管理局
編集総務課
TEL(027) 210-1158
FAX(027) 230-1393